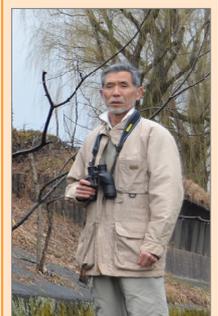


市民力かわら版



カワセミを見守り続けて十七年

皆川 丈夫



市役所と図書館・文化会館の間を流れている内川、その兩岸は水辺公園として整備され、市民の憩いの場となっています。

その一角に、長さ十メートルほどの擁護壁とも思われる所が二カ所あります。

これは何と「空飛ぶ宝石」と呼ばれ、漢字では「翡翠」とも書かれるカワセミの人口巣だそうです。



「ここから毎年たくさんの方が巣立っているとか。ここに巣が設置されて以来、十七年にわたってカワセミの観察を続けている皆川丈夫さんにお話を伺いました。

■この人口営巣地を県に要望されたのはどういう理由によるものですか？

近年の河川はコンクリートによる護岸工事が進み、本来

の河川ではなく用水堀化されて、動植物にとっては厳しい生息環境になってい

ます。内川も同様で昔は年中見られたカワセミもその営巣地が失われ

てしまい、激減してしまっていました。

そこで、治水と環境の両立を図る手段はないものかと、矢板土木事務所、そして矢板市役所建設課と協議を重ねて

きました。そんな折、北海道の旭川での人口営巣ブロックによる繁殖事例集を手に入れたので、それを土木事務所に届けて、「内川にもぜひ」と

要望しました。



■こういう事例は他にありませんか？

栃木県では初めての試みでした。北海道では旭川をはじめ、石狩川周辺で数多く設置されており。また、他県でも設置事例があります。

■なぜ街の中心地を選ばれたのですか？

野鳥の観察会で、最も人気のあるのがカワセミです。それを身近な場所

で多くの方に見ていただきたいと、

あえて市役所西側を選びました。

そして、市役所側の遊歩道沿い

に、目隠しになるよう



サザンカとエゴの木を植栽してもらいました。

■ここから毎年何羽位のひながかえっているのですか？

この工事が完成したのは、一九九八年一月でしたが、その年の三月には巣穴掘りが開始され、その後四羽が巣立っていききました。この時は本当に感動しました。

以来、毎年四〜十六羽が巣立っています。

■カワセミ観察のポイントは？

カワセミを観察するならば、早朝か夕方がい

いですね。観察の際には決して巣に近づかず、カワセミを驚かせないように、植木などの間から観察

していただくようお願いいたします。

(T・S)